

## 第5学年「社会」学習指導案

授業者 佐藤 孔美

2月22日（金）4階B室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

### 1 題材名 外国人労働者問題について考えよう②

#### 2 題材について

(1) 【場面設定】：「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を生じる問題」を扱う内容

今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について考えよう。

#### (2) 人口減少問題と外国人労働者問題

人口減少に伴い生産年齢人口比率も2065年には、現在の60.7%から51.4%にまで落ち込み、働ける人が二人に一人の時代がやってくる。今や日本は、農業、工場、介護、コンビニ、居酒屋という幅広い分野で、外国人労働者なしには日本経済が成り立たないところまで来ている。政府は、12月に外国人労働者の受け入れを拡大する出入国管理法案改正案を今国会で通過させ2019年4月から外国人の受け入れを拡大する。その数は、農業で1万8000人～3万6500人、自動車整備で6000人～7000人、介護で5万人～6万人である。日本人が就労を敬遠する3Kといわれている分野での外国人労働者の数が増えている。外国の人に安い賃金での「労働力」を求めただけで「ひとりの人間」として受け入れていないことが大きな問題点である。私たち日本人の中に知らない間にある、差別感の表れかもしれない。大切なことは、外国の人たちと共に生きていく、すなわち「共生」であると考え。共生社会を目指して行く中で、これからの日本の国のあり方として、日本の人たちがつきたがらない分野の仕事を外国の人だけに任せていってもよいのか否か、未来の日本を生きる子どもたちとともに真剣に考えたい。

#### (3) 具体的な「判断の基準」から概念化された「判断の規準」へ

本問題を判断する際に、子どもたちはまず、事実やデータに基づいた具体的な「判断の基準」をあげる。具体的な「判断の基準」から、具体的な「判断の基準」の論拠となる価値や概念を含む概念化された「判断の規準」に高めていく学習を目指したい。価値や概念に関しては社会的知識が少ない子どもたちなので、指導者が価値付けを促しながら議論を深めていきたい。そして、最終的には、妥当性のある社会認識をふまえた、市民として必要な「判断の基準（規準）」を生み出していける授業を展開していきたいと考えている。

### 3 学習指導計画（全9時間）

第一次1・2時「人口減少問題について考えよう」

第二次3時～6時「今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について考えよう」

第三次7時～9時「今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について考えよう」

### 4 本時について（11時間目）

#### (1) 本時のねらい

今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について、「判断の規準（基準）」に基づいて自分の考えを述べたり、友達の考えに付け足したり反論したりする。

#### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
本時の課題の確認【外国人労働者無くしては成り立たない日本の社会で、今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について考えよう】 【外国の人に任せてよい】 ・人それぞれ、自分に合った仕事を選ぶべきだから、外国の人がその仕事を望んだのであれば、やってもらっていいのではないかな。 ・外国の人も技術が学べるし、両国にとってよいことにつながるのではないかな。 【日本の方がもっと請け負うべきである】 ・日本人がやりたがらない仕事を外国の人に任せて、外国の人が来なくなったら、日本はもっと大変な国になってしまう。 ・日本の問題は、日本人が解決していかないといけない。3Kの仕事にもっとみんながつきたがるような制度に、国が関与して日本自身で変えていかなければいけない。	・具体的な「判断の基準」から概念化された「判断の規準」の議論の深まりを目指して、指導者が価値付けを促すようにする。 ・話し合いの中で、重要視した「判断の規準（基準）」を基に自分の考えを書かせる。

#### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

具体的な「判断の基準」から、概念化され「判断の基準」に高めるための、指導者の役割は適切だったか。